



福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会 ニュースレター

1. 今年も健康手帳を贈りました

2011年3月、原発事故当時に小学校3年生だった子どもが、今年3月に高校3年生。加えて高校中退、定時制高校で4年間を修了して、児童養護施設から巣立つ子どもも合わせて25名に「健康手帳」（ソフトウェアすこやか日誌からプリントアウトした健康手帳または手書きの健康手帳）を贈ることができました。甲状腺検査結果は最大で9回分、施設入所当時の学校検診、歯科検診、かかった病気や服薬の記録等を1冊にま

とめてあります。5年前から健康手帳と一緒に「体温計」を贈っていますが、昨年中に購入しておいたので体温計が準備でき、自立早々、卒園生の検温に役立っています。

家庭復帰の児童6名にも、施設に入所中に受けた予防接種や学校検診の結果などを「健康手帳」に記録して保護者に渡し、家庭に戻った後に施設での健康状態がわかるようにしました。

2. 自立支援プログラムで健康管理についてお話ししました

児童養護施設から自立する児童を対象に、エンジェルサポート福島2019自立支援プログラムが1月25日、2月8日、2月22日の3日間、郡山で開催され、児童養護施設を卒園した後の生活での課題について、県内の7施設から17名の高校生が参加しました。昨年に引き続き本会は『健康管理』の話をして、齋藤理事と澤田理事がしました。まず男女別にグループに分かれて、一人暮らしになってから体調を崩した時に一人で病院を受診する場面のロールプレイをしました。参加人数も多く積極的に取り組んでくれました。その後、原発事故による被曝がどのように健康に影響を及ぼすか、そのために甲状腺検査を継続的に受けてきたこと、さらに卒園前に施設で渡される「健康手帳」には検査や健康状態が記録されていること、「健康手帳」の活用方法、そして大切に保管してもらうために一緒に体温計、バンドエイドを贈呈することを説明しました。参加した高校生から「甲状腺検査はどうしてずっと続けなければいけないのか？」という質問が出ました。この質問には、原発事故による被曝は長期に渡って影響を与えることについて説明しました。

児童養護施設を卒園した若者が社会に出てから、



日常生活では症状を感じない甲状腺検査を受けに行くことは容易ではありません。本会ではこれまで、卒園生が出身施設で実施される甲状腺検査に来やすいように交通費補助を行ってきましたが、原発事故当時、施設に入所していた児童の半数が自立したので、卒園生を対象とした検査や健康相談を準備しています。（6. 第8回定期総会をご覧ください）

2月までは新型コロナウイルス感染症の影響を受けず予定通り実施できましたが、就職採用が4月1日より遅くなったり、進学者も入学式が遅れました。施設の職員は、3月末に職場や下宿まで同行し、戸惑う卒園生の思いを受け止めて、転居作業を終えた後も夜まで一緒に過ごしたケースもあつたようです。

3.新型コロナウイルス感染症対策と子ども達への影響

2月27日に安倍首相が全国の学校に臨時休校を要請して、3月2日以降、市町村ごとにはじまった一斉休校。児童養護施設にいる子ども達は施設職員以外の人との接触が不可能になり、保護者との面会もできなくなりました。

保護者との面会や外出、また施設内にある家族訓練棟での生活は、措置された子どもが家庭に戻る(家庭復帰)ために、家族との関係を再構築する時間です。子どもが家族と一緒に暮らせるようになるための重要なステップさえも中止にせざる得ない新型コロナウイルス感染症対策です。

集団で子どもが生活している児童養護施設は、密になりやすい環境で、一人が感染するとクラスター(集団感染)となる可能性があるため、福島県では5月15日に新型コロナウイルス特別措置法に基づく緊急事態宣言が解除されましたが、その後も保護者との面会が園内に制限されている施設があります。学校は5月末から再開されましたが、学校へ通えることを喜ぶ子どもばかりではなく、制限がありながら児童養護施設での生活に安定を覚えている子どももいました。施設内に友人がいて園庭もあり、限られて固定化した人間関係での3ヶ月間は、これまでにない経験であり、学校閉鎖はそれぞれの子どもの大きく影響しています。

4. 廃炉にも新型コロナウイルス感染症が影響しています

ニュースレター19号で伝えた東京電力福島第1原発1/2号機の共用排気筒は高さ59メートルまで解体して5月1日に終了しました。

(写真はコミュタンふくしまに展示されている模型、左側の排気筒を解体)



東京電力本社、柏崎刈羽原発(新潟県)で新型コロナウイルス感染者が出て、福島に持ち込まないよう厳重な隔離、管理がされていたようですが、作業員は1日平均3500人が従事していました。

感染予防のため、施設の洗面所、トイレなどには、手洗いや感染予防対策が書かれたポスターを貼って、子どもがいつも意識できるようにしていました。またドアノブにばい菌のシールを貼って(写真)、ばい菌がいるところを触った後は手を洗うことを促すように工夫をしています。子どもと一緒に生活する職員が、機会を捉えて、繰り返し感染症の話をして、子ども達は消毒や手洗いへの意識を高めています。



職員の仕事にも影響を与え、勤務時間が長くなり食事を作る回数が増えています。また感染予防対策物品を揃えるため近隣店舗を探し回ったり、万一感染者が出た場合の対応マニュアルを作ったりしています。必要なものが購入できない状態が続く中で、本会では、感染症予防対策として、スプレーボトル(消毒薬噴霧用)、体温計を、希望する施設に寄贈しています。

昨年4月に開始された3号機の燃料棒の取り出しは、本年3月24日までに全566体中119体を運び出し、一旦中止しました。その後、水素爆発で燃料上部のハンドルが変形した燃料棒を吊りあげて取り出せるかの試験を行いました。今回、ハンドル変形のある燃料棒は全16体であることが判明しました。5月末からは、燃料棒の取り出しが再開され、燃料棒7体を3日間かけて共用プールに移送して保管する作業を繰り返しています。(ニュースレター18号P3参照)

前出のハンドル変形のある燃料棒の取り出しは12月からで、本年度中に全ての燃料棒を搬出して、次の原子炉内の「溶け落ちた核燃料(デブリ)」の取り出しに着手する予定です。

2号機に615体保管されている燃料の、初の水中調査が6月10日に開始され、燃料棒取り出しは2024年以降になる予定です。

1号機～3号機の原子炉内デブリを冷却水に、地下水が流れ込み汚染水は増加し続けています。汚染水はALPS(多核種除去装置)で取り除けないトリチウムや放射性ヨウ素129が含まれたまま「処理水」としてタンクに貯蔵され、2022年夏にはタンクが満杯になります。このため、処理水の「海洋放出」か「水蒸気にして(大気)放出」

5. 県民健康調査で甲状腺がんと診断された若者たち

甲状腺エコー検査にも、新型コロナウイルス感染症は影響しています。本会で予定していた児童養護施設で実施する検査は感染症を持ち込むリスクを考慮して中止して、本年度は卒園を控えた高校3年生のみ実施予定です。

県民健康調査「甲状腺検査」は、3月のいわき市内16の学校(約2,000人)4巡目の検査、5巡目の1学期168校(小中高校、約21,000人)の検査が延期されました。唯一、一般会場では予約制で人数を制限して5月から実施しています。

第38回県民健康調査検討委員会が5月25日、Web会議で開催され、YouTubeで公開されてい

か、二つから選択するための説明が周辺15市町村議会で行われましたが、一部は書面開催、地元企業や漁業などの業界団体の意見交換会はテレビ会議で、討議が十分にできませんでした。この議論が尽くされていない状態に、国連の有害廃棄物担当の特別報告者から、決定は新型コロナウイルス感染拡大が一段落するまで控えることを求める声明が発表されました。4月に経産省が公募したパブリックコメントは、2度目の締め切り延長がされ、7月15日までになりました。

ます。報告された甲状腺検査結果をまとめると下の表になりますが、今回の検討委員会で公表された2019年12月末では前回公表以降3ヶ月間で、3巡目の検査で2人、4巡目の検査で3人が手術を受けていて、3巡目で26人、4巡目で11人が甲状腺がんと確定しています。また、平成4、5年生まれの「25歳節目の検査」(対象4,4万人)では、受診率が9.6%と低いのに、昨年9月末で4人が甲状腺がんの手術を受けていました。原発事故から9年経て、甲状腺がんを発見される若者がいます。

※福島医大病院で甲状腺がんとして手術を受けた12名(2016年6月30日時点)が、集計されておらず人数に含まれていない。

検査時期	対象	対象者数	受診者数(受診率)	悪性ないし悪性疑い	手術を受けた人数(※)
先行検査 (1巡目) 2011～13年度実施	平成4年4月2日生～平成23年4月1日生	36.7万人	30.0万人(81.7%) (2018年3月31日現在)	116人	102人
本格検査1回目 (2巡目) 2014～15年度実施	平成4年4月2日生～平成24年4月1日生	38.1万人	27.1万人(71.0%) (2018年3月31日現在)	71人	52人
本格検査2回目 (3巡目) 2016～17年度実施	平成6年4月2日生～平成24年4月1日生	33.7万人	21.8万人(64.7%) (2019年12月31日現在)	30人	26人
本格検査3回目 (4巡目) 2018～19年度実施	平成8年4月2日生～平成24年4月1日生	29.4万人	16.3万人(55.6%) (2019年12月31日現在)	16人	11人

6. 第8回定期総会を開催しました

2020年2月1日土曜日、第8回定期総会を、日本ルーテル教団アンカーホールで、会員他12名の参加を得て開催しました。2019年事業報告、会計報告はホームページをご覧ください。本年度事業計画、予算の審議の他、児童養護施設を卒園

した後の若者を対象に、健康被害の早期発見の支援をする一般社団法人「すこやかなの会ふくしま」(代表齋藤久夫)を設立したことが報告されました。新法人は施設出身の若者が、被曝から長期間経た後に甲状腺がん等の健康被害に直面することを想定して活動を開始します。

会費納入、寄付・未使用切手などのご寄付を頂いた皆様(敬称略 順不同)

2019年12月10日～2020年6月20日

日本ルーテル教団、日本ルーテル教団戸塚教会、戸塚ルーテル教会教会学校、戸塚ルーテル教会付属幼稚園、池上ルーテル教会、日本キリスト教団 南山教会、日本基督教団 大泉教会、日本キリスト教団 下落合教会、下落合教会学校、新潟聖書教会、目白聖公会、日本聖公会東京諸聖徒教会、日本聖公会東京教区外濠教会グループ、日本聖公会東京聖テモテ教会、日本聖公会Girls Friendly Society、日本キリスト教団 名古屋東教会、日本基督教団夙川東教会、日本キリスト教団西千葉教会、国際基督教大学高等学校キリスト教活動委員会、串原食肉加工組合グローバル、ロッキングオンジャパン、2010オリーブの木、Casa d' angela X' mas Concert、公益財団法人 名古屋YWCA、聖ルカ教会東光学園子ども礼拝、唐池学園 募金箱

秋山 道子、阿久澤 麻理子、荒木 暁子、青木 雅子、石井 次男、石原 潔、石原 昌子、石川 信克、生田 和正、伊藤 信彦、猪熊 京子、糸柳 尚子、今井 真純、池口 佳子、池田 香里、今泉 郷子、犬塚 茂生、岩崎 美里、いわた ちづこ、宇井 志緒利、宇野田 陽子、牛尾 幸世、臼井 美帆子、歌津 文男、蝦名美智子、海老澤 のり子、遠藤 真弓、大橋 めぐみ、大川 記代子、大塚 哲朗、大島 庸子、大畑 美和子、太田 愛智、太田 信吉、太田 智恵子、岡田 友子、岡本 玲子、沖 菜穂子、小熊 三重子、小此木 隆雄・真知子、尾関 静枝、小田 美乃里、小澤 英輔、数間 恵子、片岡 安子、川口 千鶴、川北 かおり、金澤 トシ子、桂田 梨恵、加園 貴代子、加島 春来、加藤 典子、角地 弘子、木村 泰幸、北村 今日子、工藤 美子、神戸 信行、神津 陽子、国武 和子、小松 美穂子、近藤 真由美、齋藤 みき子、齋藤 久夫、齋藤 千宏、佐野 むね、佐野 尚子、澤井 映美、澤田 耕治、澤田 稔、澤田 和美、志賀 由美、島村 陽子、嶋津 徹、白鳥 まゆみ、塩飽 仁、下澤 いづみ、杉村 恵子、杉村 太郎、杉田 教夫、菅波 靖夫、鈴見 郁子、鈴木 千衣、鈴木 敏夫、鈴木 亮、銭谷 美幸、高木 史江、高柳 允子、武井 めぐみ、武田 祐子、武藤 房枝、高橋 みつ子、高橋 梓、高橋 久夫、高橋 千治、高橋 玲子、高橋 明男、高坂 美枝、高木 健一郎、竹内 由美子、田口 恵美子、田上 ふみ子、田知本 みどり、立川 洪介、田中 とよ美、田中 好子、田中 哲夫、土屋 秀、津山 夏維、津山 春香、戸舘 陽子、永見 亜矢子、永田 栄子、中山 珠枝、中村 安秀、中島 祐子、中島 隆宏、名取 智子、西口 徹、西田 志穂、馬場 隆、橋場 みき子、畑野 研太郎、林原 健治、原 久子、原瀬 昌久、原瀬 光子、原瀬 耕、原瀬 学、原瀬 里、福島 洋子、船生 陽子、舟橋 よしえ、細谷 たき子、本多 勝次、本田 裕子、前村 恵、増田 高子、舛岡 泉、町田 洋子、松平 信子、馬淵 由季子、三原 翠、三谷 美香、三澤 篤子、宮原 多枝子、宮田 美恵、宮本 信江、村上 正孝、村上 満子、村川 佳代、村田 恵子、村本 淳子、桃井 紀子、森 晃野、守屋 正子、安間 ちょう子、安江 真佐子、安本 真弓、柳澤 千恵子、柳田 みえ、八尋 尚子、山崎 慶子、山田 忠昭、山田 洋、山田 和子、山縣 敦子、湯浅 資之、吉田 美樹、若本 美彌子、和田 康子、和田 信明、渡辺 真知子、へるす出版「小児看護」編集部、匿名希望2名

助成金：日本ルーテル教団「健康手帳・体温計ほか贈呈事業」

ホームページもご覧ください <http://www.fukujidou.org>

福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

Foster Care for **I**nfants, **C**hildren and **A**dolescents in FUKUSHIMA

略称はICA福子（いかにくこ）といたします。



共同代表 澤田 和美（福島事務所 事務局長）
塩飽 仁（東北大学大学院 小児看護学 教授）
副代表 丸 光恵（甲南女子大学大学院 看護リハビリテーション学部 教授）

事務所住所・連絡先 〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5 メゾンオープンC203
e-mail: fukujidou@yahoo.co.jp 電話・FAX: 024-573-2939

お振込先

♡ゆうちょ銀行

店名：二二九店（店番号229）

種類：当座預金

番号：02220-2-118684

名称：福島児童養護施設の子どもの健康を考える会

♡大東銀行

店名：福島西支店(店番号047)

種類：普通預金

番号：1303901

名称：福児童 代表 澤田和美

♡三井住友銀行

店名：白山支店

種類：普通

番号：6854164

名称：福児童 代表 澤田和美

本会は助成金や皆様からのご寄附により、活動を続けています。
これまでのご支援に感謝申し上げますと共に、引き続き、ご支援をお願い申し上げます。
書き損じはがき、未使用切手による寄附も大歓迎です。